

事後評価報告書

(ベルモント・フォーラム CRA「Scenarios of Biodiversity and Ecosystem Services」)

1. 研究課題名：「生物多様性と生態系サービスの持続的利用を目指したシステム横断型アプローチによる社会学・生態学統合研究の展開」

2. 研究代表者名：

日本側：（北海道大学）（北方生物圏フィールド科学センター）（教授）（仲岡 雅裕）

相手側1：（Chinese Academy of Sciences）（Section Institute of Geographic Sciences and Natural Resources Research）（Professor）（Xiubo, Yu）

3. 事後評価結果

(1) 研究成果の評価について

空間明示的フットプリント解析、エリアケーパビリティとLCAの融合、ステークホルダーの関与と法規制の分析、集水域レベルのプロセスモデルなどの新しい手法の開発に各国の研究者の得意分野を活かした形で共同研究を進め、インパクトある成果を出しており、査読のある雑誌の特集号やシンポジウムなどで積極的な発信もしている。国際連携に加えて、若手研究者にも議論に参加する機会を設け、積み上げ式に研究を進めたことも、予算の規模を鑑みると、高く評価できる。

中国やオーストラリアなど環太平洋諸国に比べて、欧州や北米へのプレゼンスがやや弱く、今後の課題だろう。特に、今回の成果が、アジアで特異的なものなのか、普遍的なことなのかは重要で、国際横断的な比較検討も、将来の研究課題とすると良いのではないかと。また、これらの手法が具体的な研究対象に対して、どのように適用できるのかを明確にするシステムを考えてもらいたい。

(2) 交流活動の評価について

国内外の若手研究者が研究に参加することにより、持続的な研究ネットワークが構築されたことに加え、若手トレーニングコース等、人材育成に寄与した。各国の研究者の得意分野を分担・融合させる形で相乗的な交流が行われ、共著での論文を執筆するなど、情報交換や国際交流による成果が具体的な形として得られている点も評価できる。

個々の成果がやや散漫に見えてしまう点はやや損をしている感がある。ネットワークを国際的に広げる工夫やステークホルダーとの交流を積極的に考えてもらいたい。

(3) その他

成果は各国政府の意思決定、海洋保護区などの設定指針、各国の社会・経済・政治状況などの影響分析などに重要なデータや示唆を与え、インパクトが大きい。また、研究成果が、複数の新たな大型研究プロジェクトのシーズとなって、研究を発展させている点は評価できる。